



夏休みの自由研究を推進する  
大分市小学校理科教育研究会事務局次長



理科専門の教員でつくる大分市小学校理科教育研究会は、毎年夏休みに市内の児童に自由研究の取り組みを促している。例年200点を超える応募があり、秋に作品展を開いている。事務局は、募集、審査、作品展示に関わる。「研究を見てみると『そうきたか!』とうなることもある。大人が考えつけないような視点がたくさんあって面白い」と声を弾ませる。作品展の目的は、理科好きな児

## 自分なりの表現力発揮を

はいさき  
のぶお  
拝崎 信雄さん(40)

童が考え、調べた成果を発揮する場づくり。さらに、理科に興味がない児童にも「やってみたら面白かった」という機会をつくること。自由研究に敷居の高さを感じている児童には、小さな疑問でも「調べてみたら」と周りの大人が認める声かけが大切と考える。「簡単な研究でもいい。『あれ?』という疑問を気軽に試し、分かったことをまとめる過程が大事」と力を込める。

「対話型人工知能ができ、まとめたり表現したりするのに苦労しない時代が来そう。だからこ子どもには自由研究を通して自分なりの表現力を身に付けてほしい」熊本大大学院で理科教育を学んだ後、臨時講師を経験し、2009年に採用。現在は碩田学園6年生の担任。児童と楽しく話している時に元気をもらおう。「大変だけどいい仕事です」。出身の大分市内で妻、7歳と5歳の息子と暮らす。(渡辺美加)

大分合同新聞 2023年8月1日(火) 朝刊 3面

〔問①〕 拝崎さんは何という団体で、どんな役職についていますか？

〔問②〕 拝崎さんが作品を見て面白いと感じるのはどんなことですか。

〔問③〕 作品展を開く目的は何ですか。2つ答えなさい。

(目的-1)

(目的-2)

〔問④〕 拝崎さんは人工知能が台頭する世界を生きる子どもたちにどんな力をつけてほしいと思っていますか？

〔問⑤〕 来年の夏休み、もし、理科の自由研究に取り組むとしたらどんな自由研究に取り組んでみたいですか。